

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 原 徳明  
〒520-0113大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：t-press@tendai.or.jp

令和8(2026)年7月1日 水曜日  
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



天台宗が展開する社会啓発運動である『一隅を照らす運動』が令和11年に60周年を迎える。一隅を照らす運動総本部では、住職(支部長)から檀信徒(会員)に至るまで広く運動の精神や意義などの再認識を図る『一隅を照らす運動研修会』を令和8年度に始める。5月27日には、講師を務める各教区本部事務局長や代表者(講師候補者)を対象にした研修会が天台宗務庁を会場にオンライン併用で開かれ、24名が参加した。

## 発足60周年に向け研修会始動

### 運動理念や歴史を再認識し更なる展開を

#### 一隅を照らす運動総本部

一隅を照らす運動は、宗祖伝教大師が願われた国宝的人材の養成、仏国土の建設を現代社会に引き継ぐと昭和44年(1969)に発足した。当時は高度経済成長期のなか、信仰と実践によって一人ひとりが心豊かな人間になり、平和で明るい世の中を共に築いていこうと社会に呼びかけられた。

その活動目標として「生命」「奉仕」「共生」を実践3つの柱として定め、普段の生活に密着して活かすことができるよう提唱している。

天台宗務庁に置かれる総本部、30教区に置かれる各教区本部、そしておよそ全国3000力寺ある寺院教会が支部である。

総本部では、世界平和、人道支援、海外教育支援、地球環境保全への協力、自然災害に対する救援、公開講座や研修会が催されている。また教区本部では、推進大会が開かれるなど、様々な活動を行っている。各支部においても、支部独自の会が組織され、支部長(住職)を中心に一隅を照らす運動の精神を体した活動が展開されてきた。

一隅を照らす運動総本部では、昨年から企画運営委員会で3年後を迎える60周年を見据えた取り組みについて検討を開始。半世紀以上にわたる活動や各支部、支部長らの実績を踏まえ、運動が未来永劫継続していけるよう願い、テーマを「希望の光を未来へ紡ぐ」に選定した。これまで運動自体の理念や意義などが語られる機会が多くなかった。

それを踏まえ、令和11年までに運動発足の経緯や理念を再確認する研修会を開催し周知することを決めた。この研修会では、各支部(寺院教会)において支部長(住職)が会員である檀信徒に向けて講義することを目指している。

今回開かれた研修会は、その支部長らへの指導役として講師を担う各教区本部事務局長や講師候補者らが対象で、企画運営委員会の雲井雄善委員長が実際の資料を用い模擬講義が行われた。資料は、運動の理念や歴史、組織図や活動例などがまとめられており、スライド形式でも説明が可能となっている。

全国の各教区本部と各支部に研修会開催を周知したところ、反響は大きく、今秋にも研修会を開催する教区本部や支部もあり、更なる展開が期待される。

研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

「研修会冒頭で挨拶した一隅を照らす運動の荒穂勝善総本部長は「運動の理念を知り、活動するには、運動発足の意義や経緯の理解を深めることが大切だと考えた。それには教区本部の事務局長様に理解していただいた上で、各支部に伝えてもらうことが重要である。伝教大師のみ教えを社会に具現し仏国土を築いていくとの目的を成就するためにも是非「協力」と理解を求めた。」

#### 極微

社会人の基礎としてよく言われる報告、連絡、相談の「ホウレンソウ」。いつから言われ始めたのか定かではないが、自分も新社会人の頃に指導を受け、身につくまで時間がかかった▼いつ、何を、どのように伝えたいのか要領が掴めず、他の業務に押し流され後回しになり、注意を受けた。時には怠ったことにより、大きな問題に発展したこともあった▼出張に出る時間、メールのやりとり、自分が何をやるつもりで何が終わっていないか。ほんの一言、挨拶を交わす感覚で伝えるだけで上司や同僚は非常事態への受け入れ体制ができ、互いに安心できる。それが信頼関係を築く手法のひとつなのだ、ようやく理解し始めた▼昨今はそれに「おひたし」が追加されていると聞いた。令和の世の中ではハウレンソウを受けたら、調理しなければならぬと言っから驚きだ▼報告について感情的に「怒らない」、相手の言葉を「否定しない」、報告を聞いて必要であれば「助ける」、相談を受け適切に「指示をする」とのことだ。重要なのは事実と感情を切り分け、話しやすい雰囲気を作ることだという。これはビジネスの場に限らず、日常生活でも大切なスキルなのではないか▼職場上だけでなく日々の生活でも「おひたし」を心がけようと、弁当の隅にあるほうれん草を食べながら考えた。